

## 日本人とトルコ人



(Drawn by Akino SASAKI)

二人が初めて会ったのは、1980年代、ドイツのケルン（ドイツの町の名前）でした。この時は、まだドイツが東西に分かれていました。日本人もトルコ人も30代後半の男性で、結婚して子どももいました。家族は、それぞれの国にいました。日本人はハンドボールの勉強のために、トルコ人は経済学の勉強のために、ドイツへ行きました。二人は、留学生向けの寮で、同じ部屋に住んでいました。違う大学で勉強していたので、平日の夜や週末だけ、二人は部屋でゆっくり一緒

の時間を過ごすことができました。部屋で家族、仕事、お互いの国、ドイツのことなど、話しました。二人は、自分の勉強のためにドイツに行ったので、お互いの国について、あまり興味がありませんでした。そのため、お互いの言葉を覚えたり、文化を知ろうとしたりしませんでした。二人の会話は全てドイツ語でした。

2年後、日本人が先に留学を終えて、日本へ帰りました。トルコ人は、6年後に国へ帰りました。二人が帰国した1990年代前半は、まだパソコンやインターネットは一般的ではありませんでした。二人はふと思い出したときだけ、手紙のやり取りをしました。数年に1回の手紙なので、ただ、「元気?」、「仕事はどう?」というあいさつだけでした。

1990年代後半に、日本人の子どもとトルコ人の子どもがドイツへ留学しました。日本人の息子はドイツ語の勉強のため、トルコ人の娘は自動車の勉強のためでした。しかし、留学した時期が違っていたので、二人はドイツで会うことはありませんでした。日本人とトルコ人は、お互いの子どもがドイツへ留学したことを手紙で伝えました。

2000年代に、二人はお互いの国で会いました。2002年に、日本と韓国で、サッカーの世界カップが開かれました。そのとき、トルコ人は家族と一緒に日本へ行きました。日本人の家に泊って、旅行をして、日本とトルコのサッカーの試合を見ました。2006年には、日本人が家族と一緒にトルコへ行きました。トルコ人の家に泊って、トルコ料理を食べて、旅行をしました。

しかし、それから二人が会うことはありませんでした。パソコンやスマートフ

オンをみんなが持つようになって、二人の連絡は数年に1回だけでした。二人は、ただドイツで会った日本人とトルコ人でした。

日本人の息子は、父親が亡くなってから、父親が使っていたパソコンを開きました。その時、ドイツ語のメールを見つけました。トルコ人からのメールで、病気で自分の命が短いことを伝えていました。日本人の息子は、トルコ旅行のお礼を言って、父親が亡くなったことを知らせました。すると、トルコ人の娘からメールが届いて、彼女の父親が亡くなったことを知りました。日本旅行がとても楽しかったからまた日本へ行きたい、とドイツ語で書いてありました。

(1136 字)

(2021.4 Written by Wakiko FUTAKUCHI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています (クレジット : ©たどくのひろば)。このライセンスのコピーを閲覧するには、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/deed.ja> を訪問して下さい。

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. (credit : ©たどくのひろば). <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>